

# 質保証のための学生参画 —イギリスの事例から—

田中正弘(弘前大学)

2012年8月23日

同志社大学東京オフィス



# 目次

---

1. 「高等教育質保証機構」(QAA)の新しい戦略
2. QAAと「全英学生自治会連合」(NUS)の協同
3. 「全国学生調査」(NSS)と「学生満足度調査」(SSS)
4. まとめ

# 目的

- 「高等教育質保証機構」(The Quality Assurance Agency for Higher Education: QAA)は最近, 教育の質保証における「学生参画」(student engagement)の理念を唱え, その重要性を強調するようになった。
- そこで, この理念の概要と, 主な取組(調査結果)について, 紹介したい。



# 1. Q A Aの新しい戦略

# QAAの新しい戦略

- 「高等教育質保証機構」(The Quality Assurance Agency for Higher Education: QAA)は、2011-14年度の戦略として、四つの目的を掲げた。
  - ◆ 第一の目的は、「学生の要求を満たし、彼らに評価される」(to meet students' needs and be valued by them)ことである。
- この目的を達成するために、QAAは、
  - ◆ 全ての学生が可能な限り最高の教育経験を得られることを、保証する。
  - ◆ 大学が「学生の期待を具体化し」(to shape students' expectations), その期待に応えられるように、支援する。
  - ◆ 「教育の水準と質に関して、学生に明瞭に説明し、パートナーとして、彼らと協同」(to communicate clearly to students about standards and quality, and will work with them as partners)する。
  - ◆ 学生の見解や多様な要求に応え、彼らの利害を保護する。

# 高等教育質保証規範

- QAAは、質保証の全国的なガイドラインとして機能してきた「評価の基盤的枠組み」(Academic Infrastructure)を、2011年以降、「イギリス高等教育質保証規範」(UK Quality Code for Higher Education)へと改編する作業に取り組んでいる。
- この質保証規範は、三部構成で、
  - ◆ A部(教育の最低水準の設定と保持)が6章
  - ◆ B部(教育の質の保証と向上)が11章
  - ◆ C部(高等教育法案に関する情報)が現在執筆中である。
- B部第5章の表題は、「学生参画」(student engagement)で、質の保証・向上の過程への学生の参加について規範を示す内容になっている。
  - ◆ 従来の**評価の基盤的枠組み**には無かった、**斬新なアイデア**といえる。  
(ただし、アメリカやオーストラリアが先行している。)

# B部第5章（1）

- B部第5章によると、「学生の個人的・集団的な見解は、彼らの教育経験の向上を目的とする質保証制度に利用できる情報となるべきである」(QAA 2012: 2)。
- 学生が提供できる(あるいは、彼らの行動として提供される)情報は、下記のような内容を含む(QAA 2012: 2-3)。
  - ◆ 出願と入学の状況について
  - ◆ 高等教育への適応について
  - ◆ プログラムの計画, 提供, 運営について
  - ◆ カリキュラムの内容について
  - ◆ 教育方法について
  - ◆ 学修機会について
  - ◆ 学修環境について
  - ◆ 学生支援・指導について
  - ◆ 成績評価について

# B部第5章（2）

- 「全ての学生は、質の保証・向上の過程に関与する**機会**（**opportunity**）を、彼らにとって適当な方法や段階で得るべきである。（よって、）学生がその機会を活用するように促される文化と環境を大学が構築することは、重要である」（QAA 2012: 3）。
- 高等教育機関は、
  - ◆ **学生からの個別・集団意見を採用**するなど、質保証制度への積極的な学生参加を促進させるべきである。
  - ◆ 学生代表を任命・選抜する明快な仕組みを、学生の合意の元で実施するべきである。
  - ◆ 学生や職員へのガイダンスや継続的支援を、彼らの質保証の役割に応じて提供するべきである。
  - ◆ 質保証への学生参画に関する政策や過程の効果を監査および批評し、向上させるべきである。





## 2. QAAとNUSの協同

# QAAとNUSの協同

- QAAは、2011年9月に、「全英学生自治会連合」(National Union of Students: NUS)と、「**学生中心の質保証**」(student-centred quality assurance)という協同プログラムを開始した。
  - ◆ このプログラムに、QAAは£218,000を投資した。
- このプログラムは、主に下記の四つのプロジェクトで構成されている。
  - ◆ 「学生の経験」(Student Experience)に関する、**研究報告集**の作成
  - ◆ 質保証に関与するための、学生の訓練とテキストの作成
  - ◆ 質保証に関する、全国各地での学生向けイベントの開催
  - ◆ 質保証への学生参画を発展させるための、16の学生自治会に対するQAAの助言と支援

# NUSの研究レポート

- 「学生の経験」の研究レポートは、2012年7月現在、四つ作成されている。
  - ◆ 「教育と学修」(Teaching and Learning)
  - ◆ 「自主的な学修と授業時間」(Independent Learning and Contact Hours)
  - ◆ 「分野の差異」(Subject Differences)
  - ◆ 「初年次教育」(First Year Student Experience)
- これらのレポートの副題は、「教育経験の質に関する知見を得るための学生経験の研究」(Student experience research to gain insight into the quality of the learning experience)で統一されている。

# 研究レポートの調査方法

- 調査は、下記の方法を組み合わせて実施された。
  - ◆ 全国レベルのオンライン調査(質問紙形式)
  - ◆ 全国8カ所での個別訪問調査(面談形式)
  - ◆ オンラインのグループ討議(調査結果の確認作業)
- 調査方法は全体論的(holistic)手法となっている。
  - ◆ 質問紙調査は、5090名から回収した(別紙1参照)。
  - ◆ 個別訪問調査は、2時間で計5~10名を対象に、8カ所で合計135名の学生と面談した(別紙2参照)。
    - 面談はビデオで録画している。
  - ◆ グループ討議では、計34名の大学代表が参加した(別紙3参照)。

# 「教育と学修」の調査結果（1）

## ■ 教育の質について

- ◆ 学生は、全般的に、教育技能が学修と教育の経験をより良くする最も重要な要素だと見なしている。
- ◆ 多くの学生は、**対話式授業の増加**を求めている。
- ◆ 43.3%の学生が「個別指導」(tutorial)の時間増加を、41.9%の学生が指導教員との面談の時間増加を、それぞれ希望している。
- ◆ 54.7%の学生は、刺激的な講師(の存在)が彼らの学修を好転させる動機付けになると見なしている。

# 「教育と学修」の調査結果（2）

## ■ 学生の声について(1)

◆ 86.9%の学生は、彼らのコースを論評する機会を持てたと述べている。

- 授業評価アンケートへの回答によって(69.7%)
- 指導教員を介して(94.8%)
- コースの学生代表を通して(60.2%)

◆ ただし、彼らの論評が行動に移されたと感じているのは、**58.2%の学生しかいない。**

（日本の感覚からいうと、**58.2%もの学生が**、といえそうだが、,,）

# 「教育と学修」の調査結果（3）

## ■ 学生の声について(2)

- ◆ 52.1%の学生が、彼らのコースの教育内容を具体化する、何らかの支援作業に関わった。
  - ただし、その作業に関わりたかったと述べた学生は、75%いる。
- ◆ 2割程度の学生は、コースの学生代表として関わることを、そして、同じく2割程度の学生は、成績評価基準の策定に関わることを望んでいる。
- ◆ 多くの学生は、コースの発展にどのように関与できるのか、本当のところは**理解できていない**と述べている。

# 「教育と学修」の調査結果（４）

## ■ コメントと成績評価

- ◆ 学生は教員の口頭でのコメントの増加を、繰り返し要求し続けている。
  - 42.3%の学生は、課題を課した教員のコメントを口頭で得ているが、その機会を望む学生は66.1%もいる。
- ◆ 39.3%の学生は、試験結果へのコメントを筆談で得ている。
  - ただし、過半数の学生は、教員との個別面談でのコメントを望んでいる。これを実現できている学生は、15.1%しかいない。
- ◆ 37.4%の学生は課題提出後の1～2週間以内に、38.1%の学生は3～4週間以内にそれぞれコメントを得ているが、15.3%の学生は5週間以上も待たされている。
- ◆ 大多数の学生は、非公式なコメントを得る機会を与えられている。
  - とはいえ、21.6%の学生は、形成的評価（授業期間中にそれまでの学習到達度を把握し、その後の学修に活かす評価）を全く受けていない。





# 3. NSSとSSS

# NSSとSSS

- イギリスの主な学生調査には、下記の二つがある。
  - ◆ 国レベルで統一した質問項目で調査を実施する、「全国学生調査」(National Student Survey: NSS)
  - ◆ 機関レベルで独自の質問項目で調査を実施する、「学生満足度調査」(Student Satisfaction Survey: SSS)
- NSSでは、「大学に対する公的なアカウントビリティ要請への応答、個別大学の機能改善、および**受験生への情報提供**がその目的と位置づけられている」(沖 2010: 5)。
  - ◆ NSSとSSSの詳細は、沖清豪(2010)「イギリスにおける全国学生調査(National Student Survey)の導入と課題—IR(機関調査研究)のためのデータ収集という観点から」『早稲田大学教育研究フォーラム』第2巻, 3-20頁を参照のこと。



# 4. まとめ

# まとめ

- イギリスでは、大学の質保証の過程において、学生の経験や見解が多様な形で活かされるべきだという、「質保証への学生参画」の理念が提唱された。そして実際に、そのための取組が始められている。
  - ◆ QAAの政策決定への意見提示や支援を行うために、QAAの評議会と会合する組織として、「学生意向評議会」(Student Sounding Board)が設置された。
  - ◆ 学生評価委員(82名の学生)の訓練が始まった。
  - ◆ 学生代表がQAAの評議会理事に任命された。
  - ◆ 質保証に関する学生イベントが開催されている。
  - ◆ 質保証の情報を平易なものに改める作業に着手した。



**ご清聴ありがとうございました。**

**田中正弘（弘前大学）**

# 参考文献

- 沖清豪(2010)「イギリスにおける全国学生調査(National Student Survey)の導入と課題—IR(機関調査研究)のためのデータ収集という観点から」『早稲田大学教育研究フォーラム』第2巻, 3-20頁。
- National Union of Students (2012) *Student Experience Research 2012, Part 1: Teaching and Learning – Student experience research to gain insight into the quality of the learning experience*, London: NUS.
- Quality Assurance Agency for Higher Education (2012) *UK Quality Code for Higher Education, Part B: Assuring and Enhancing Academic Quality, Chapter B5: Student Engagement*, Gloucester: QAA.